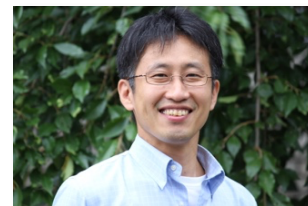


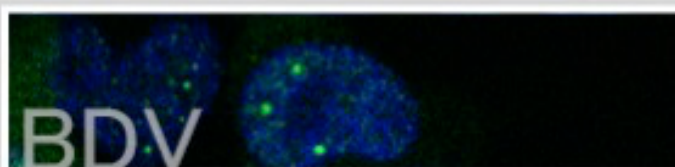
# 病原ウイルス学分野

Department of Virology

**ウイルスに学ぶことで、生命現象を理解する  
その理解に基づき、治療・利用法を開発する**

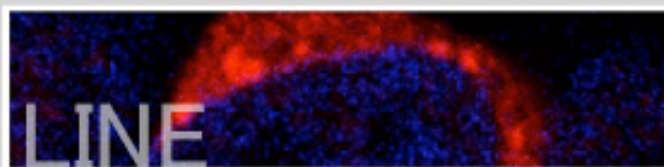


ウイルスは最も細胞を理解し、数少ない遺伝子産物で細胞機能を操作しています。私たちは、ウイルスの精緻な営みを詳細に理解することで、様々な生命現象の原理を解明しようとしています。知り得た事実をうまく利用し、ウイルス感染の治療薬の探索、ウイルスベクターの開発、ウイルスを用いた細胞機能の制御などの研究・開発を進めています。



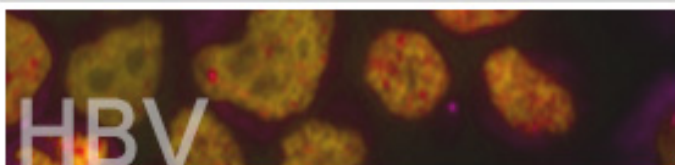
▶ ポルナ病ウイルス

BDVは、神経指向性のRNAウイルスで細胞核に持続感染するのが特徴です。BDVの持続感染では、抑うつ状態や学習障害、社会行動異常など精神疾患様の症状を来すことが報告されています。BDVの病原性解析により、精神疾患の病態解明や核内での非自己RNAの挙動原理を明らかにします。



▶ レトロトランスポゾン

ヒトゲノムの約40%をレトロトランスポゾン（転移因子）が占めています。中でも、LINE-1 (long interspersed nuclear element-1) は、現在でもゲノム上で転移を繰り返しています。最近、これらレトロトランスポゾンとウイルス間の相互作用が報告されました。この相互作用の実態とその意義を明らかにします。



▶ B型肝炎ウイルス

HBVは僅か3.2kbのDNAウイルスで、たった4つの遺伝子産物しか発現しないにも関わらず、肝炎や肝がんを引き起こす重要なウイルスです。近年、ウイルスの感染実験系が樹立され、研究が緒についたばかりです。このウイルスの生活環を解明し、病態発症機構と治療戦略に迫ります。



▶ ヒトヘルペスウイルス6B

HHV-6Bは普遍的なウイルスで、生涯にわたり体内に持続・潜伏感染します。ところが、造血幹細胞移植などの免疫低下時に再活性化して脳炎や脳症を起こすことがあります。このウイルスが潜伏感染を維持し、神経病原性を発揮する仕組みを解明します。さらに、他のヘルペスウイルスについても研究しています。

連絡先／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 社会環境科学専攻 病原ウイルス学（教授 本田 知之）

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 基礎研究棟 8F Phone: 086-235-7167 FAX: 086-235-7169

E-mail: [vivivi@okayama-u.ac.jp](mailto:vivivi@okayama-u.ac.jp)

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/virology/index.html>